

---

**これは小説ですか？いいえ漫画のプロットです(本当です)**

紙神師氏

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

これは小説ですか？いいえ漫画のプロットです（本当です）

### 【Zコード】

Z5148Y

### 【作者名】

紙神師氏

### 【あらすじ】

これは、あくまで漫画用プロットを載せただけです  
それでもいいやと言う人だけ読んで  
評価してくれたらなと思います

… がたりがたりがたりがたり (前書き)

これが面白いと言つ人がいたら  
漫画を描いてジャンプに投稿したいと思つています  
よろしくお願ひします

俺には友達がいた

だが、それは突然の出来事だった…

三ヶ月前

ある日、俺はその友達と一緒に学校の帰りに寄り道しながら帰つて  
いた

友「はあ～ひまだな」

主「暇だな～じゃねえよ（笑）ばか明日はテストがあるから今日は  
午前で帰れたんだから

すぐに帰つても勉強しなきゃ いけねえだろ？」

友「まあそうだけどさあ、お前は… ちゃんに教えてもらえばいいか  
ら楽だよな（笑）」

主「確かにあいつは教えてくれつたら教えてくれるだらうけどさ  
… ちゃんとは俺の彼女のことだ

俺たちはそんなに頭は良いほうではないだからといって  
勉学に勤しんだりするわけでもない

主「あいつにあんま借り作りたくねえんだよ…」

友「ひゅうーかつこいいじゃん」

主「と言うわけで友人A図書館いこうか？」

友「友人Aつて俺のこと！？？」

主「他にだれかいるのか？俺には見えないが…」

友「いやいやひどいねあんた友人Aつて…まあいいや  
そんなふうに俺たちはくだらないことを話したりしていた

友「で、ホントに図書館行つて勉強すんの？」

主「ああ

友「ああ～めんどくせ～」

主「まあそういうなつてもしかしたらお前の好みの女の子がいるかもしれないぜ？」

友「…まあそんなにいうなら付いて行ってやうなこともないぜ？」  
にやけ面でそういった

主「なんかいま間が空かなかつたか？」一ヤ一ヤ

友「…氣のせいだ。早く行くぞ」うちの工場通つたら近道じゃん

「

主「おいおいあぶねえんじゃねえか？」

友「でい丈夫だつて」

今思えばそれを止めておけばよかつた…  
ドーンと言つ爆発が聞こえた氣がした  
否聞こえた氣がしたと言つより

聞こえてはいたのだけはつきっと

意識を失う直前に…

何もない距離感すらつかめないただ…真つ白い場所

俺は立つていた

主「さつき俺たち爆発に巻き込まれて…」

俺はハツとした

主「…俺は…し、死んだのか？さつきので嘘だら？あにつは…はどこだ？」

そして真つ白の世界が霧が晴れたよつよつに向こう側が見えた…

主「なんだあれ柵？か人がいるのか！？」

俺は走つてその場所に向かつた無我夢中で

柵の向こう側にいた奴は…だつた

主「なんだお前もいたのかよおい…こはどこだ？知つてるか？」

柵の向こう側はとても暗かつたとても深い闇のようだつた…

…は返事をしてくれない

主「おい…！」

やつとこじりに氣づいた

友「…か？良かつたお前はそっち側だつたか…」

主「？どついう意味だよ？」

俺は唐突に言われて意味がよく理解できなかつた：

否理解できなかつたのではなく理解したくなかったのかも知れない

友「お前と出合つてから毎日がとても愉快だつたよホント退屈しなかつた…」

主「何だよそのもう終わりみたいな言い方これからもそれはつづくんだよ…！」

友「いや無理だ…だつて俺はもう死んでるんだから」

俺は唐突に告げられた今の言葉に疑問を持つた

主「俺は？」

友「ああ死んだのは俺だけだ」

主「！…！」

友「だから…」

主「そんなのつてねえよ…！お前がちがつたよな？「毎日が退屈しなかつた」つて！」

俺も一緒になんだよ！俺も楽しかつた！お前とふざけ合つたりつまらないことで喧嘩したりバカやつたり全部楽しかつたのに…はい、そうですか

つて言えるわけないだろ！」

友「俺はお前が死んでなくて良かつた…」

主「？」

俺はかつて悪くその場で泣きまくつていた

友「だつてよお前が死んだら悲しむ奴が沢山いるじゃねえか…

俺には泣いてくれる奴なんて…ああ…がいたつけなはは…だからもう別に…」

主「それ以上言つてみろ…！お前を本氣でぶん殴る…！…！」

そういうつて俺は柵を思いつきり殴つていた本氣で…

友「殴れねえよ！－！もう…」

そしていきなり柵が上がった見えなくなるくらいまで高く

天「本氣で生きたいか？」

主友『！－！』

友「な、俺はもう死んだんじゃないのかよ？」

天「お前は本来死ぬ人間ではなかつた…」

友「じゃあ…」

天「その代わり条件がある…」

友「な、なんだ？」

天「そこの生きている人間と体を交代しながら使うのだ…」

友「！－！」

天「ただし交代する時間は一日10分間だ だがお前は体の中にいる間

そいつの視点から見ることはできる」

友「それはこいつに迷惑…」

主「オッケーそれで生き返らしてくれんだろ？」

友「！－！おまえ自分が何言つてんのかわかつてんのか？」

主「ああ要するにこいつと四六時中一緒つてこつたろ？」

生き返らせてくれるつて言つてんだ文句はいえねえだろ？」

俺は当たり前のよう言い張つてやつた

友「お前それ嫌じやないのかよ？ 気持ち悪くないのかよ？」

主「いやそりゃあ気持ちわりいよ？ 正直考えただけでも吐き気がしてくる」

友「だつたら何で俺なんかのために…」

主「お前のためだからだよ！」

天「じゃあいいんだな？」

主「ああ」

友「…ああ ありがとうな」

天「一つ言つておいたがお前はじぶんの事を人にばらしてはならん

主友《えつーー》

天「ぱらじた場合はこちら側に即強制連行だいいな」

主「お、おじょっと待てよ…」

天「まあがんばることだそれではな」

主「お、おいふざけんなーーそんなこと許さね…」

視界が真っ暗になつた

主「はつーー」

俺は飛び起きた

主「ここは病院？あれば夢？」

ぱさつ

何かが落ちた音がした音が落ちた方に振り向くと

…がいた

…「…！」

主「おはよつ…」

…「ばかつおはようーー！」

罵りと挨拶が一辺に来た

主「俺どれぐら<sup>寝てた</sup>いお前を待たせた？」

…「…一ヶ月」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5148y/>

---

これは小説ですか？いいえ漫画のプロットです(本当です)

2011年11月17日21時10分発行